焼津市

地形概況

高草山から大崩海岸の海食崖への山地が北部をしめる。朝比奈川と瀬戸川ぞいは自然堤防をもつ三角州性平野からなる。南部の大井川扇状地は旧流路と微高地がみられ低い部分は養魚池や盛土の改変地となる。海岸に砂礫堆の石津浜が発達する。

地質概況

北部の山地はアルカリ玄武岩から構成される。瀬戸川沖積地の北側は泥質層、南側は泥砂礫互層が厚く堆積する。沖積地の南部は大井川扇状地の厚い砂礫層からなり、旧河道にそっては泥層が堆積するが、圃場整備事業で表層は著しく改変された。

気象概況

年平均気温は推定 16.0℃で、県内でも気温の高い地域である。年平均降水量は推定 2,600mm で、駿河湾沿岸の中でも多い方であって、特に梅雨から夏季(4 月から 8 月)に全降雨量の約 50%が集中する。日照時間も比較的多く海陸風の循環により、年間を通じてしのぎ易い。

災害事例 地震

- 1944 年 12 月 7 日（昭和 19 年）東南海地震 M=7.9
  県中・西部に大被害を与えた地震であるが、当地では被害軽微であり、震度 4～5 程度であった。
- 1854 年 12 月 23 日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
  全県下に大被害を与えた地震で、焼津では焼津神社拝殿が倒れ、普門寺が全潰し、貞善院の鐘楼も潰れた。また城之腰・鰯ヶ島・北新田では、町内の家過半数が全潰し、小川でも、民家全潰 52 戸、半潰 28 戸、寺門 2 個所、寺玄関 2 個所、本堂 2 個所、庫裡 3 個所、氏神拝殿 1 個所などの被害が出ている。大富で、潰家約 200 戸、その他新屋・塩津・中村・北村で神社・寺院の潰れたものがあった。また焼津・大富で亀裂した土地から水が湧き出たところがあった。震度は焼津・小川・大富で 6～7、鰯ヶ島・北新田・塩津・中村・北村で 6、城之腰・新屋で 5～6 であった。
- 1707 年 10 月 28 日（宝永 4 年）宝永地震 M=8.4
  全県下に被害があったが焼津でも震度は 6 に達した。
- 1498 年 9 月 20 日（明応 7 年）明応地震 M=8.2～8.4
  小川・会下島・三ヶ名に津波侵入の記録がある。震度は焼津・小川・会下島・三ヶ名で 6 と推定されている。

災害事例 津波

- 1960 年 5 月 24 日（昭和 35 年）チリ地震津波
  南米、チリ沖に起こった地震による津波で、日本の太平洋岸各地で被害があった。焼津漁港の検潮器によると最高潮位は平均潮位上 1.20m であった。
- 1944 年 12 月 7 日（昭和 19 年）東南海地震津波
  三重県沿岸を中心に被害が大きかったが、当地では黒名川の底がみえるまで引いた

程度で、陸上へは上らなかった。津波の高さは 1.5m 程度である。

- 1854 年 12 月 23 日（安政元年）安政東海地震津波
  全県下に津波被害があった。焼津では 2.3～4m の高さの津波があった。
- 1498 年 9 月 20 日（明応 7 年）明応地震津波
  小川で海長寺の堂・坊が津波に流され、会下島・三ヶ島にも津波が侵入したといわれる。

災害事例 高潮

- 1979 年 10 月 19 日（昭和 54 年）台風 20 号
  床下浸水 530 戸に達した。
- 1959 年 9 月 26 日（昭和 34 年）伊勢湾(15 号)台風
  鰯ヶ島海岸の防潮堤が破壊した。全壊 1 戸、半壊 17 戸、床上浸水 5 戸、床下浸水 298 戸の被害を生じた。
- 1959 年 9 月 26 日（昭和 34 年）伊勢湾(15 号)台風
  鰯ヶ島海岸の防潮堤が破壊した。全壊 1 戸、半壊 17 戸、床上浸水 5 戸、床下浸水 298 戸の被害を生じた。

災害事例 台風

- 1982 年 9 月 12 日（昭和 57 年）台風 18 号
  県中部を中心に全県下に被害あり、焼津市高崎の集会場脇で土砂崩れがあり、3 名が死亡した。また市内の瀬戸川が決壊するなど、市内で死者 3 人、負傷者 9 人全壊 3 戸、半壊 2 戸、床上浸水 1,077 戸、床下浸水 1,356 戸の被害がでた。
- 1974 年 7 月 7 日（昭和 49 年）台風 8 号(七夕豪雨)
  全県下に被害を生じ、当地では床上浸水 1,095 戸、床下浸水 950 戸、冠水田 500ha、道路決壊 6 個所、山(崖)崩れ 3 個所の被害があった。
- 1954 年 9 月 18 日（昭和 29 年）
  全県下特に中・西部で風水害があった。焼津市では小川氾濫と高波によって床上浸水 40 戸、床下浸水 2,100 戸の被害を生じた。
- 1953 年 9 月 25 日（昭和 28 年）
  全県下特に西部で風水害を受けた。焼津では高波の侵入で全壊家屋 10 戸、流失 1 戸、浸水家屋 450 戸を生じた。
- 1952 年 6 月 23 日（昭和 27 年）ダイナ台風
  御前崎から駿河湾北部を通過した台風で、大雨により瀬戸・朝比奈両河川合流点で決壊し、全市の 1/3 が浸水した(床上浸水 624 戸、床下浸水 1,627 戸)。橋流失 3 個所、田畑冠水 125ha の被害があった。
- 1922 年 8 月 24 日-26 日（大正 11 年）
  24 日には防潮堤を越えた高波で死者 1 人、全壊流失 9 戸半壊 70 戸、床上浸水 160 戸、床下浸水 1,760 戸、冠水田畑 38ha の被害が出た。また 26 日には豪雨で全壊 18

戸の被害が出ている。

- 1910 年 8 月 9 日　（明治 43 年）
  全県下特に中・西部で大きな被害を受けた。連日降雨が続いたが、9 日は特に強く諸河川は増水氾濫した。橋梁は流失し、全町に浸水した。
- 1897 年 9 月 9 日（明治 30 年）
  暴風雨で 4 時頃最も強かった。当地の被害は死者 1 人、負傷者 2 人、家屋全壊 87 戸、半壊 37 戸、破損 48 戸などである。
- 1884 年 9 月 15 日（明治 17 年）
  猛烈な台風が襲来し、暁から大雨となり午前 10 時から午後 3 時までの間は風雨が最も強かった。家の倒壊、農作物の被害も多かった。
- 1828 年 8 月 10 日（文政 11 年）
  この日より大雨が降り、翌日午前 6 時頃大井川の水は氾濫を起こし、大富・和田などの諸村を通り田尻海岸に注いだ。一面に浸水し、ひどい所は床上 2 尺にも達した。

災害事例 豪雨

- 1968 年 7 月 5 日（昭和 43 年）
  遠州海岸地方で 1 時間 20～50mm の豪雨が降った。浸水家屋床上 16 戸、床下 1,360 戸、冠水田 785ha の被害があった。
- 1961 年 6 月 28 日（昭和 36 年）
  瀬戸谷川ほか諸河川が氾濫し、小川新地大村付近の被害が大きかった。当地の被害は、床上浸水 220 戸、床下浸水 2,500 戸、田畑冠水 870ha、土砂崩れのため半壊家屋 2 戸などであった。

災害事例 冷害

- 1783 (天明 3 年)
  夏も梅雨のように雨が降り続き、夏でも袷を着なければ過せない程気温が低く、また東北地方で飢饉がひどかった。方ノ上村も凶作に見舞われた。